

情報連絡員報告総括表（令和4年5月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況						
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化				
製 造 業	食料品	2	2		1	3		1	3			4		1	1	2		4			4			4		1	1	2				
	繊維工業	1	1	1		2	1	2	1			3			3			3			3			3			2	1				
	木材・木製品		1			1			1			1			1			1			1			1			1					
	紙・紙加工品			2		2		1	1		1		1			2		2				2		2				2				
	印刷		1			1			1			1			1			1			1			1			1					
	化学・ゴム																															
	窯業・土石製品	1	1	1		3		1	2			2	1		2	1		3			3			3			2	1				
	鉄鋼・金属			1			1		1				1			1		1				1		1			1					
	一般機器	1	1	1	2	1		2	1			3		1	2			3			2	1	1	2		1	1	1				
	電気機器			1			1			1		1				1			1			1		1				1				
	輸送機器			1			1		1			1				1			1			1			1		1					
その他																																
小計		5	7	8	3	13	4	7	12	1	1	16	3	2	10	8		18	2		14	6	1	18	1	2	10	8				
非 製 造 業	卸売業		2			2		2				2			1	1		2		X					2			1	1			
	小売業	1	2	3		5	1	4	2			2	4		1	5		3	3						6			2	4			
	商店街		1				1	1				1			1			1							1			1				
	サービス業	1	3	1	X	X	X		4	1		5			3	2		3	2						4	1		3	2			
	建設業	1	2	1					4			4		1	3		1	3			1	3			3	1	1	2	1			
	運輸業			1					1			1			1				1				1					1				1
	その他		1									1			1			1				1						1			1	
小計		3	11	6		7	2	7	12	1	1	15	4	1	10	9	1	13	6				1	18	2	1	10	9				
合計		8	18	14	3	20	6	14	24	2	2	31	7	3	20	17	1	31	8		14	6	1	36	3	3	20	17				

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和3年5月～令和4年5月)

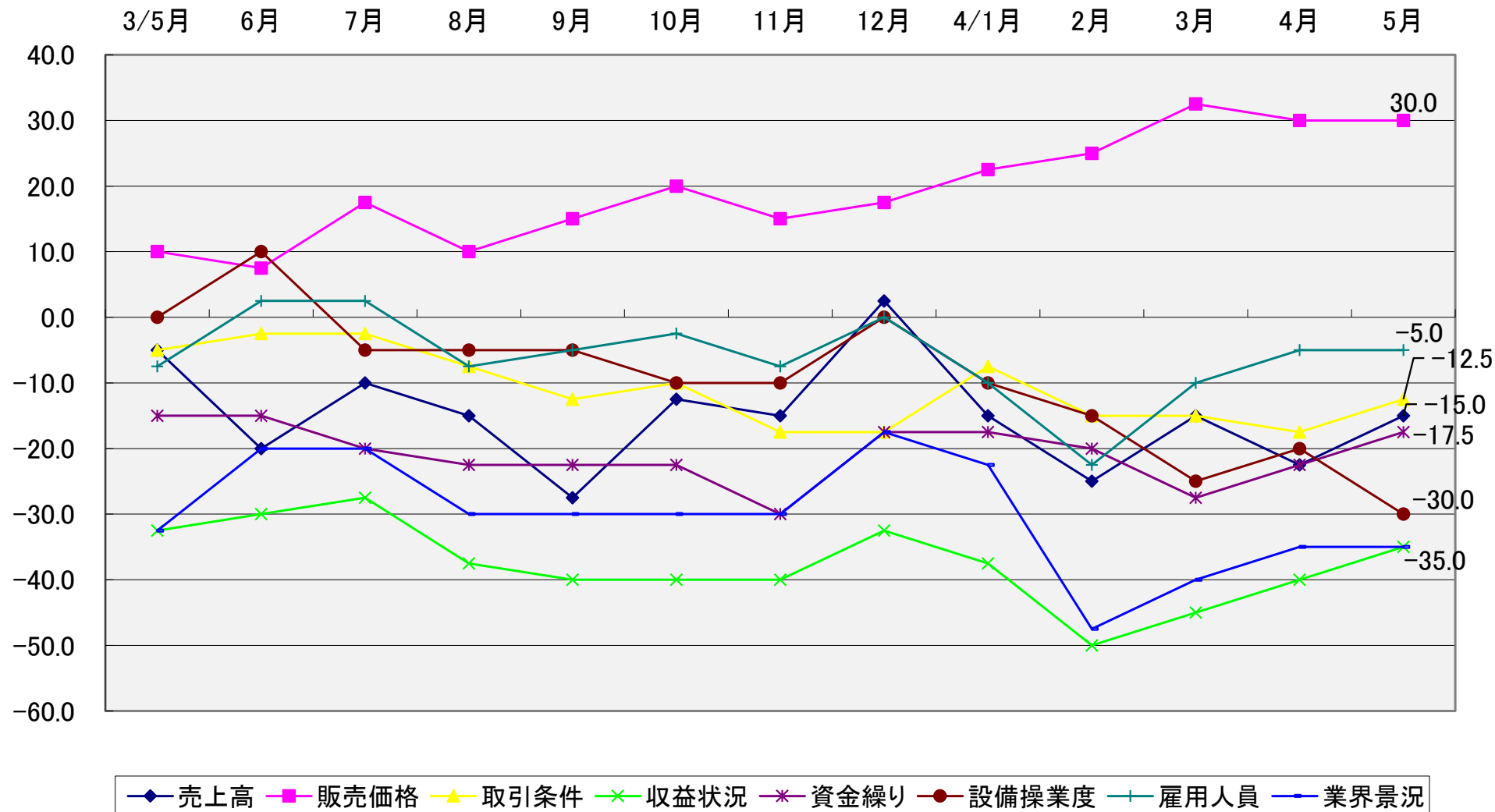
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	3/5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4/1月	2月	3月	4月	5月	増減
売上高	-5.0	-20.0	-10.0	-15.0	-27.5	-12.5	-15.0	2.5	-15.0	-25.0	-15.0	-22.5	-15.0	7.5
販売価格	10.0	7.5	17.5	10.0	15.0	20.0	15.0	17.5	22.5	25.0	32.5	30.0	30.0	0.0
取引条件	-5.0	-2.5	-2.5	-7.5	-12.5	-10.0	-17.5	-17.5	-7.5	-15.0	-15.0	-17.5	-12.5	5.0
収益状況	-32.5	-30.0	-27.5	-37.5	-40.0	-40.0	-40.0	-32.5	-37.5	-50.0	-45.0	-40.0	-35.0	5.0
資金繰り	-15.0	-15.0	-20.0	-22.5	-22.5	-22.5	-30.0	-17.5	-17.5	-20.0	-27.5	-22.5	-17.5	5.0
設備操業度	0.0	10.0	-5.0	-5.0	-5.0	-10.0	-10.0	0.0	-10.0	-15.0	-25.0	-20.0	-30.0	-10.0
雇用人員	-7.5	2.5	2.5	-7.5	-5.0	-2.5	-7.5	0.0	-10.0	-22.5	-10.0	-5.0	-5.0	0.0
業界景況	-32.5	-20.0	-20.0	-30.0	-30.0	-30.0	-30.0	-17.5	-22.5	-47.5	-40.0	-35.0	-35.0	0.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いている。また、販売状況においてもコロナウイルスの影響により、お土産物の漬物の販売及び外食産業での需要の減少が続いてきたが、ここに来てやや回復の兆しがみられる。一方で、ウクライナ侵攻の影響による諸資材の高騰により、製造コストに影響が出ている。 また、今年はコロナの影響もあり昨年同様に通常総会を5月25日に本人出席少数による書面決議により実施した。
	醤油味噌	3年ぶりにコロナによる行動制限のないゴールデンウィークを迎えた。県内の観光地も賑わいを取り戻したようで一昨年、昨年よりもかなり人出が増えた。観光関連、飲食店への納入先を持つ組合員の売上も増えたようだ。反面、昨今あらゆるモノやサービスの価格が上がり、原価アップ・経費アップとなり利益を圧迫している。中小企業者である組合員は価格改定をどのように行うか苦慮している。主要原料である大豆・小麦の穀物類は高値で推移し、世界的な供給不足で取り合いになっている。また、物流面においては、コンテナが不足し日本への輸出は20フィートコンテナから40フィートコンテナでしか輸入が出来ず、狭い道路事情の納入先では直送が出来ず、いったん港で保管、積み替えて納入する手間が増え保管料・運賃増の心配がある。 5月27日に組合通常総会をリアルで開催した。
	すし・弁当・調理パン製造	コロナ感染症による人流規制が緩和され、ゴールデンウィーク期間のスポーツ関連のイベントの多くは3年ぶりに復活開催されたが、企業関連の行事は自粛解除には慎重で、実施見送りの行事が多数あった。また、連休明けにコロナ感染者数が増加したため、予定されていた他県との対抗試合が種目により中止された。日配弁当においては原材料費の高騰により、一段と厳しい状況が続いている。ケータリング関係は品質保持のため、値上げ要請を承諾して頂いているが、日配弁当では顧客の低価格指向が強くと他業者と比較され、低価格帯の値上げ、底上げは厳しい状況である。ロシアによるウクライナ侵攻の影響で小麦、雑穀類の高騰は先が見えず、今後ますます関連商品の値上げが見込まれ、厳しい状況が続くものと考えている。
	製麺	4月同様に人が動き規制が外されて、全体的に商品が動き出している。組合員も同様に暫く物が流れてきている状況である。原材料の高騰が続いているので、今後価格の見直しが必要である。コロナ融資が必要かと思う。今後とも、前向きに取り組んでいく。 5月に組合の総会を開催できた事は、喜ばしい事であった。
繊維工業	組紐	原材料費の高騰や原材料不足が続いているが、増加・好転とまではいかないが、上向きの兆しはある。
	衣料縫製	ようやく技能実習生の入国が始まり、少しずつではあるが、回復に向かっている。このまま順調に進めばいいと考えている。
	テントシート	原材料費の高騰や燃料、光熱費の上昇等の影響により、設備投資を控えているようになってきている組合員もある。
木材・木製品	木材	急激な円安やウクライナ情勢により欧州材を中心とした輸入材の仕入が依然として困難となっており更なる影響が憂慮されている。昨年来の住宅資材全般の品薄状態は依然として続き、前月比ではやや弱含み傾向であるが、前年同月比では原木、製品共に高値維持で推移している。
紙・紙加工品	紙器段ボール	段ボールシートの値上げは、予想通り5月21日、6月1日からメーカーから押し切られる感じで決定した。値上げ幅は8~12%で、平均10%となった。各組合員は得意先に段ボールケースの値上げを交渉しているが、スムーズに受けいれるところは少なく、難航が予想される。一部のお得意先では値上げ交渉が進まず、取引を見切る場合も出てくる可能性がある。仕事量は若干少なめである。
	古紙	5月の仕入量：段ボール・約94±3%、新聞、チラシ・約95±5%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約90±7%である。円安と輸出古紙価格の値上げから少しずつ日本の古紙の価値が国際的に認められているように錯覚する。集荷量は少子高齢化とIT化のイノベーションと紙離れ等とコロナ後の社会変化によって3年ほど減りが早くなった印象である。発注量は多く未達状態である。食料品や燃料の高騰や人件費の上昇、電気代や資材の高騰により、経営の見直しを迫られている。更なる円安で原紙や古紙や金属スクラップ等の輸出ができれば、価格は高いもののコンテナ不足や国内消費が多く輸出余力は少ないようである。古紙の持去りやゴミの置き去り行為も多いが、金属等の高騰で鉄やアルミ等の持去りが多くなっているようである。古紙の持去り行為禁止の法制化は、原案を省庁から正式に断られたままで別法や議員立法での法案づくりをしているとのことであるが、未だ実現されていない。現行法では、警察が窃盗として取締りを行えないため、窃盗罪を認めてもらえよう、警察力で行為の禁止と流通の禁止等が出来るようになってほしいものである。
印刷	印刷	十分な感染予防対策をして総会が開催された。組合員は3社減少して60社となった。減少要因のひとつである後継者問題は今後も懸念される。業況は売上等を不変としたが、これはコロナ禍の影響による厳しい業況が昨年と変わらない状況ということである。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
製	窯業・土石製品	伊賀焼 緩やかにではあるが、お客様、飲食店等の注文等が少しずつ戻ってきているようである。しかしながら、原料費、燃料費の高騰による負担増に頭を悩ませている。	
	鉄鋼・金属	鍍金 当業界の生産額は上海のロックダウン、中国部品メーカーの火災等があり、自動車関連がかなりの減少という状況であった。建築関連部品は横ばい、ガス関連部品も横ばいの状態であった。これはウクライナ情勢の影響に起因するものである。原油価格の高騰、原材料（特に金属類）の高騰によるもので、収益面は非常に厳しいものがある。顧客先には原材料高騰に対しての値上げ交渉を継続中であるがなかなか難しい状況である。	
	一般機器	四日市	実状、業況はコロナ感染者数が高止まり先行きが見通せない上に紛争や急激な円安により材料不足、特に仕入れ価格の上昇などで企業経営に悪影響が出ている。
		津市	半導体不足と中国・上海でのロックダウンによる部品不足の影響により、自動車業界は5月についても稼働停止があったため、その影響が5月下旬からの受注にあらわれ、減少に転じている。売上金額では前年比98%であるが、材料高騰により単価が反映されただけであり、売上個数でみると前年比76%と悪化している。
		伊勢	まん延防止等重点措置の解除等を受けて、経済活動が正常化になる中、供給制約の緩和が生産活動を活発化させてきた。しかし、ロシアのウクライナ侵攻で資源価格の上昇と中国での新型コロナ感染拡大で、モノ不足とモノの値上がりは解消するどころか、更に酷くなっている。資源価格の高騰やモノ不足が続けば、また状況が悪化する可能性がある。
	電気機器	鳥羽 受発注の推移は変わらず、10～15%ダウンの状況が続いている。原材料、副資材費の値上げが続いているので、業績が悪い。	
輸送機器	鈴鹿 鈴鹿市内の大手自動車メーカーでは部品供給の混乱により大型連休を延長して臨時休暇にしたため、5月の生産台数は通常月の半分程度となったが、後半以降は通常の稼働に戻ってきている。この臨時休暇分は8月以降の土曜日を月1～2回程度、出勤に振り替えて挽回する予定である。		
非製	小売業	青果 野菜前半：大型連休の雨や気温の低下が影響し、全体的に入荷が少なく、キャベツ、レタス、ほうれん草の葉菜類が値上がり、ミニトマトは入荷が増加しお買い得である。またブロッコリーも安い。 野菜後半：愛知産のキャベツは順調に入荷し、少し安くなってきた。じゃがいもは平年並みの価格に玉ねぎは愛知産、兵庫産の入荷が伸びず、高値が続いている。6月かららっきょう、梅の入荷が本格化しそうであり、平年より高値になりそうである。 果物前半：熊本産クインシーメロンの入荷が増え、手頃な価格であり、赤肉で甘みが強い。スイカも徐々に増え、山形産サクランボも入荷が始まり、高値で推移している。 果物後半：熊本産、愛知産のスイカが順調に入荷している。クインシーメロンも順調に入荷で、値下がりした。熊本産、肥後グリーンメロンの甘味は最高である。島根産のデラウェアは少しずつ入荷が増え、値を下げつつある。	
		自転車 自転車月間の5月のさわやかな日、各小中学校では自転車安全点検、交通安全教室等の行事が行われ、当組合員はPTA家庭教育学級部の皆様と共に参加し、自分の命を守るための大切な行動、また交通ルールについて子供と共に再確認した。昨年はゴールデンウィークが過ぎたこの時期から、某工業メーカーのリコール部品交換で、各店舗はその対応に追われたものであった。今年は某部品メーカーがリアディレイラー（変速機）の不完全な物が流出したと5月中旬に発表され、6月1日よりユーザー様向けの告知が行われる予定で、店舗への持ち込みが予想されそうである。 通常総会も無事終了し、その発表によると支部解散を含む4名、廃業7名の計11件の脱退があった。	
	電器	コロナ感染者数がやや減少している中ではあるが、相変わらず半導体不足や輸送状況の悪さから各商品の入荷が大幅に遅れている。特に住宅設備関連からエコキュートやIHクッキングヒーター、そして冷蔵庫や洗濯機、電子レンジ、炊飯器などである。ここ最近では今年の夏が猛暑という話からエアコンも元々不足しているところへ需要が多くなりそうで、確実に品不足、価格高騰が避けられないであろう。人の動きがやや出始めていて、購買力が上がってきている時期にこの状況はとても厳しい。	
	石油	ガソリンの異常な安売りを規制する実効性向上策を検討している公正取引委員会の具体案が見えてきた。現行のガソリン不当廉売ガイドラインを改正し、「サービスステーション事業者の本社部門の経費や人件費などを総販売原価に含める」と明記し、実質的な値引きと認められるポイント還元費やクレジットカード手数料も廉売と密接な費用として明示する。廉売を可能にするための経費の一部としてこれらを仕入れ価格に加え、判断基準になる価格水準自体を引き上げる。不当廉売構成要素のひとつ、影響要件についても踏み込み、これまでに排除措置命令や警告に至った中から大規模事業者の事案などを例示し、詳細調査の対象にすることも明確にする方針らしい。我々中小の販売業界としては、取り締まり強化に大きな期待をするものである。	

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
造業	スポーツ	いつまで続くかと思われたコロナ禍は終息したわけではなさそうであるが、感染者数もいくらか少なくなってきたようでほっとしている。学校の活動も動き出し、またクラブ活動も行われるようで、スポーツ用品の需要も出てくると思われる。スポーツ用品は数十年前より国産品はなく、ほとんど上質な物は中国（上海）産であるため、上海のロックダウンが大問題となっている。シューズ、チームユニフォーム等は全く入荷しない状況である。6月1日に上海のロックダウンが解除されたので、商品の入荷を待ちながら、商売を行っていく。	
	商店街	熊野市	まん延防止等重点措置が全国的に解除された久しぶりのゴールデンウィークは、県外ナンバーの車も多く見られ、各観光地の人出も多く久しぶりの盛況であった。ただ、比較的若い層が多いようであるため、購買力について中高年齢層に比べては、劣ってしまうとのことである。今後再開するであろう「Go toトラベル」等の再開を待ち望んでいる声も多いようだ。
	サービス業	旅館	5月はゴールデンウィークに来客が集中して各地とも賑わっていたが、5日からは閑散としてしまったようである。県民割、ブロック割等を利用されているようであるが、昨年の「Go toトラベル」のような勢いはない。お客様が外出を控えているのか、広報不足かわからないが、利用促進を早急に推進する必要がある。ゴールデンウィーク中は対前年比200%、2019年比80%程度であった。5月については、全体で対前年比300%、2019年比75%位であった。
		警備	昨年に続き、コロナの影響でゴールデンウィークの警備受注も少なく、売上が伸びなかった。
	建設業	内装工事業	5月は連休もあり、売上は例年どおり多くはないが、今年是对前年同月比で1.6倍になった。コロナの影響がまだ続くと思われるが、早く景況が戻るよう願っている。
		水道工事業（亀山）	依然、給湯器、トイレの便座の入手が困難な状況が続いている。管材については、価格が上昇したが、入手は大丈夫な状況で、仕事がストップする状況ではないが、先行きはまだまだ不透明である。
運輸業	トラック	軽油価格は先月に引き続き値下がりしていたものの依然として高値となっていることから、運送事業者の経営を圧迫している。電子、デバイス部門は今月も順調に増加したことから、関連する輸送についても好調となった。自動車関連については、中国・上海で続いたロックダウンの影響で部品の供給が滞った事や半導体不足の影響で県内にあるホンダ技研、トヨタ自動車関連の工場で生産調整を行ったことから、関連する輸送も大きな影響を受けた。消費者物価の上昇の影響で、スーパーマーケットや小売関連の伸びは鈍化しており、輸送についても先月並みとなった。	

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	醤油味噌	中小業者の価格改定（納入価格の引き上げ）を大手量販店が拒んでいて、コストアップの価格転嫁が進んでいないようだ。特に、PB商品は製造業者がコストを負担している感がある。国の監視を強め、指導を行ってほしい。
	製麺	今後、機械設備等を導入していくにあたり、助成金情報を教えてほしい。
一般機器	四日市	コロナ感染状況を踏まえた柔軟な対策の拡充 急激な円安により原価が上昇しても販売価格に転嫁できない、資材の納期の長期化により稼働が停滞するといった企業も多く、そういった現状の把握ときめ細やかな支援を希望します。
サービス業	旅館	物価高が徐々に経営を悪化させている。特に宿泊業ではボイラーに使う重油や電気料金の高騰により、固定費である水道光熱費も上昇し、利益が確保できない。エネルギー価格の低減をはじめとした原料等の高騰対策を早急に要望する。